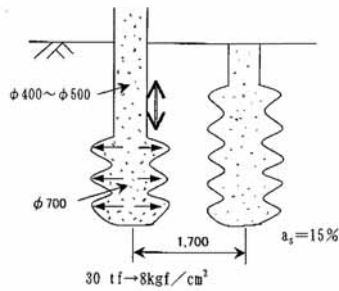


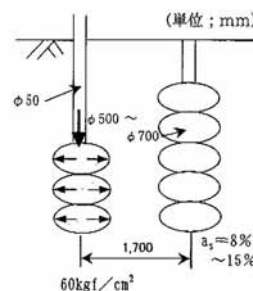
日時：平成17年11月2日(水) 18:00~19:30
 場所：文京シビックホール 第2会議室
 講師：村沢譲 みらいジオテック(株) 代表取締役
 演題：静的締固め工法(CPG:コンパクショングラウチング工法)余談
 内容：



1. 静的締固め工法とは



静的締固め砂杭工法



CPG工法

2. CPG 注入材について

- 液体から固体 何が良いか？
- 圧入抵抗が小さく、地盤内で逸散しない
- 粗骨材に潤滑材
- 配合(1m³当たり)

セメント	160kg
水	426kg
特殊骨材	1,360kg (ローム:生コンスラッジ:砂 = 1:2:2)
スランプ	5cm 以下



3. 余談

- 工事の実績ではダメ、地震の洗礼を受けて実績となる
- 密度増加・固化効果・拘束効果について確認、検討が必要
- 「建設汚泥」とよく使われることが多いが「建設泥土」と呼び“汚”の使用を改める運動を COBRA で行なっては(平気で使っているが、汚いものではない)
- 関空滑走路の持ち上げ(共用しながら)の技術・工法提案を公募中(ホームページ掲載)
- 各種材料の水分保持能力

材料	関東ローム	山砂(木更津産)	高炉セメント	カオリナイト(木節粘土)	ベントナイト
水分保持含水比(24時間経過後)	162%	38%	96%	83%	283%

* 木節粘土に興味あり、焼き物に最適

* 水分保持含水比：自然沈降における飽和含水比

- 圧入抵抗を小さくするための潤滑材効果としては最も水分保持力が大きいベントナイトが良いが、逆に固化強度に悪影響を及ぼす。従って現状では関東ロームが最適と判断している。

質疑：土かぶり、注入圧力、特殊骨材について等活発な質疑がなされた

参加者：会員；15名、非会員；5名 合計20名(交流会参加者；17名)

資料：当日配布資料が必要な方は、担当者までご連絡下さい。

担当：鈴木 TEL: 03-3872-6064 e-mail: k.suzuki@kotohcorp.co.jp